



鶏 鳴

けいめい

2010年5月9日(第36号)

イエスの言葉

『見ないのに信じる人は幸いである』

聖書(ヨハネ福音書20章29節)

牧師 河合裕志

イエスが最後十字架につけられて死んだことは多くの人知っている。しかしその後どうなったかは多くの人知らない。その後って何? 何かあったの? あった、あった、大いにあった。それはその後、三日目の日曜日に生き返ったということ。

そんなこと、とても信じられない。そうだよ。実は最初の弟子達も信じられなかった。イエスの遺体を納めた墓が空っぽになったことを最初に知ったのは女の弟子達で彼女らは真っ青になって男の弟子達に伝えた。男達も空虚な墓を確認したがまさかイエスが復活したとは思わなかった。

さてその夕方のこと、弟子達がユダヤ人を恐れて家の戸に鍵をかけて小さくなっていると鍵もあけないでイエスがスッと入って来た。そして彼らの真ん中に立ち「あなた方に平和があるように」と言い手とわき腹を見せた。手の平には十字架につけられた時の生々しい釘跡、わき腹には槍で刺された跡があった。彼らはここに至ってイエスの復活を信ぜざるを得なかった。

イエスが立ち去った後、弟子のトマスが外出先から帰って来た。他の弟子達は彼に、イエスを見たよ、ここに現れてくれたよ、と興奮気味に語ったが彼はあくまでも冷静だった。私だって見なくちゃ信じないし、

この指を釘跡、この手をわき腹に入れてみなければ決して信じないね、と言った。

それから八日の後、やはり弟子達が戸に鍵をかけて集まっていた。今回はトマスも一緒。そこへまたもやスッとイエスが入って来て真ん中に立ち「平和があるように」と言うとトマスに向かって「あなたの指をここに当てて手を見なさい。手を伸ばしてわき腹にいれなさい」と迫った。ここに至ってトマスはヘナヘナになってしまい膝を屈し手を合わせて「わたしの主、わたしの神よ」と言うばかり。

ここでイエスは彼に言う。「わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は幸いである」。見ないのに信じる、これはとっても難しいこと。しかし手がかりが全くない訳ではない。最初に復活のイエスに出会った人々の証言集である福音書が新約聖書に納められている。このイエスの言行録を心をこめて読んで行くなればイエスはあなたの心の内によみがえって来る、立ち上って語りかけて来る。これは不思議なこと、是非実験してみしてほしい。こうして2千年の間人々は見ないで信じて来た、復活したイエスに出会って来たことになる。あなたも出会ってほしい。

集会案内

主日礼拝	: 毎日曜日午前10時15分
主日夕拝	: 毎日曜日午後6時
子どもの教会	: 毎日曜日午前9時
中高校生会	: 毎日曜日礼拝後
おしゃべり会	: 毎木曜日午前10時
聖書を学ぶ集い	: 第4水曜日午前10時